

福島大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画) (概要版)

策定：令和2年12月22日

1. 対象施設

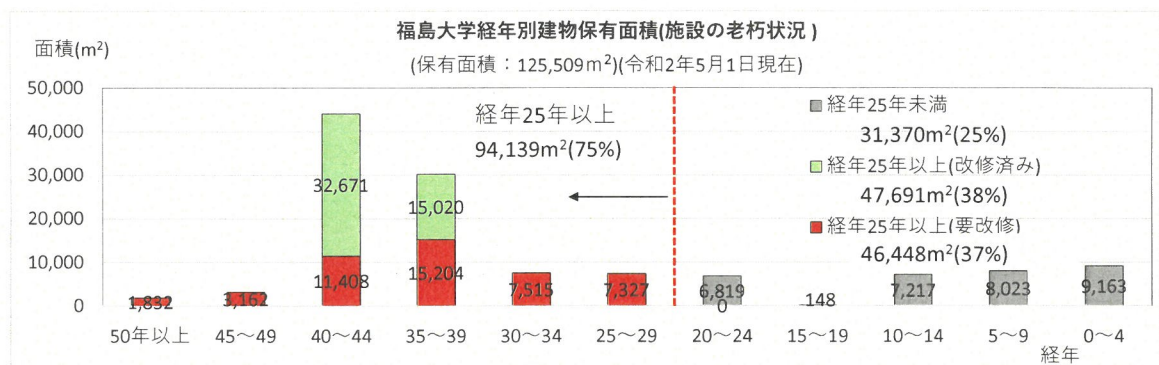
大学が保有する教育・研究活動と地域・社会貢献への基盤となる建物、基幹設備(ライフライン)が対象。

2. 計画期間

30年間。

3. 施設の実態

老朽改修の目安となる建築後25年を経過した建物は大学全体の保有面積125.5千m²の75%に当たる94千m²であり、そのうち未改修で老朽化した建物が46千m²(37%)存在する。基幹設備(ライフライン)についても大半が法定耐用年数の15年を経過しており、更には30年以上経過している設備・配管もあり、事故の発生率の増加や教育・研究活動への影響が危惧される状況。



4. 施設関連経費

施設関連予算については、運営費交付金、施設整備費補助金、施設費交付金等の外、学内予算において、施設改修・修繕費として配分され、法令対応・安全管理・危険防止対策・建物機能保全の計画的な点検・修繕工事費に充当されている状況。

5. 長寿命化対策の優先順位の考え方

個別施設の経年・劣化状況、教育・研究活動における役割・機能の状況、緊急度の状況、影響度、集約化の可能性、大学の将来構想等を考慮し既存施設が最大限に活用できるような優先順位とする。

6. 個別施設の状態等

対象建物の建物カルテを作成し、令和2年度に点検調査を8団地、77棟実施。

7. 長寿命化対策内容と実施時期

従来型のライフサイクル(築30～40年で大規模改修、築60～65年で改築)から長寿命化型のライフサイクル(築20～25年・築60～75年で性能維持改修(予防保全改修Ⅰ・Ⅱ)、築40～50年で性能維持+機能向上改修(長寿命化改修)、築80～100年で改築)に変更し長寿命化を図る。

8. 長寿命化対策費用

コスト縮減を図るため、長寿命化型のライフサイクル+平準化による対策を行う。

○建物長寿命化対策費用

大規模改修(長寿命化改修) : 3.8億円/年 (30年間の総計113.3億円)

性能維持改修(予防保全改修Ⅰ・Ⅱ) : 2.1億円/年 (30年間の総計 63.6億円)

○基幹設備(ライフライン)長寿命化対策費用

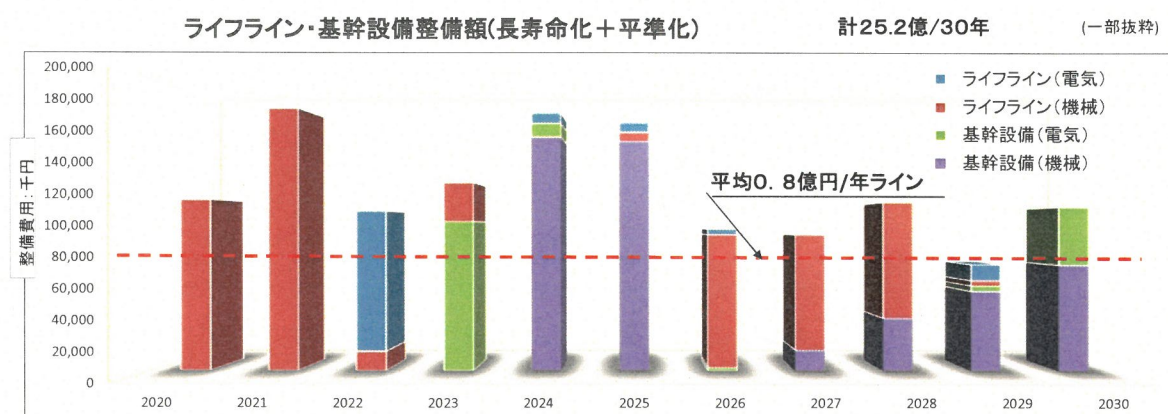
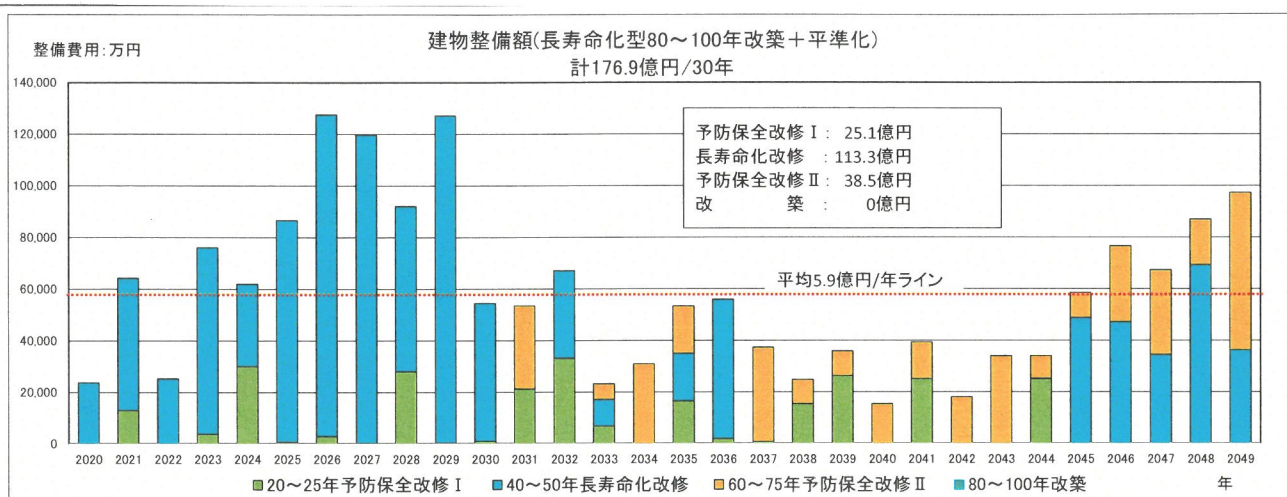
更新改修(長寿命化改修) : 0.8億円/年 (30年間の総計 25.2億円)

○年間必要経費

3.8億円+2.1億円+0.8億円= 6.7億円/年 (30年間の総額 202.1億円)

○建物の大規模改修費(長寿命化改修)図

従来型のライフサイクル ⇒ 長寿命化型ライフサイクルへ変更



9. 予算の確保

長寿命化型対策を継続的に進めるためには、施設整備費補助金に頼るのみではなく、多様な財源の確保を行うことにより、計画的な進捗を実施。

- ・施設整備への活用が可能な寄附金での財源確保。
- ・全学的なスペースチャージの導入を進め対策費用を確保。
- ・スペースチャージを導入することで真に必要なスペースでの効率的な利用を図り、未利用面積の削減等により保有面積の適正化、施設のトリアージを推進。
- ・突発的な故障等の発生を考慮し、緊急修繕予算を確保。

10. 施設メンテナンスサイクルの確立

効率的で効果的な対策を進めるために施設メンテナンスサイクル(①点検・診断、計画の策定→②対策の実施→③対策効果の検証→④対策の見直し→データの蓄積・活用・充実①へ)の確立が重要。

11. 施設保有面積の削減計画

運営会議において学類別の保有面積再配分目標面積が示され、人間発達文化学類では保有面積の16%の削減面積及び計画案が報告されている。

12. フォローアップ

大学改革の推進、大学をとりまく環境の変化及び施設の急激な老朽化への対応のため、随時、本計画の見直しを行い、安全・安心で持続可能な施設として維持。